

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スタジオみらい藤沢		
○保護者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2026年3月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 30
○従業者評価実施期間	2026年2月10日		～ 2026年3月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	2026年5月7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりに合わせた個別支援ができていること	スケジュール提示、視覚支援、個別課題設定を行い、本人の特性やペースに応じた支援を実施している。日々のミーティングで支援内容を共有し、統一した対応を意識している。	個別支援計画と日々の記録の連動をさらに強化し、支援内容の見える化と評価の精度向上を図る。
2	保護者との信頼関係・情報共有体制が整っていること	送迎時の口頭共有、連絡帳、面談、電話対応など複数の方法で情報共有を行い、相談しやすい環境づくりを行っている。迅速な相談対応を意識している。	保護者向け資料や活動報告をより分かりやすく整理し、SNSや写真共有等も活用しながら発信力を高める。
3	職員間の連携と支援改善への意識が高いこと	定期ミーティング、ケース共有、ヒヤリハット共有、研修参加を行い、支援の質向上に取り組んでいる。プログラム改善や環境調整も職員間で随時協議している。	外部研修や専門職連携を増やし、障害特性理解・家族支援・虐待防止等の専門性向上を継続的に進める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や外部活動の機会が少ないこと	感染症対策や安全面への配慮、送迎時間・職員配置の制約により、地域との交流機会が限定的になっている。保護者にも活動内容が十分伝わっていない面がある。	地域イベント参加、学校・他事業所との交流、地域資源活用を計画的に実施し、年間行事として定着させる。
2	保護者への説明資料やガイドライン周知に分かりづらさがあること	ガイドラインや支援内容が専門的で、書面量も多いため理解しづらい部分がある。説明方法が職員ごとに差が出る場合がある。	図式化・簡素化した説明資料を作成し、契約時や面談時に統一した説明ができる体制を整える。
3	災害・緊急時対応の周知不足	避難訓練は実施しているが、保護者への周知や具体的な対応イメージ共有が十分ではない。	緊急時マニュアル配布、訓練実施報告、災害時フローチャートの掲示等を行い、安心感向上につなげる。